切除可能非小細胞肺癌II-IIIA期における血漿検体を用いた

可溶性免疫因子のバイオマーカー研究

研究の意義・目的

手術可能と診断されたII-IIIA期の非小細胞肺がんの方には手術による切除、その後術後補助化学療法を行います。一方でIV期やIII期の非小細胞肺がんの方の治療では人がもともと有する免疫力を利用した抗がん薬（抗体薬）である免疫チェックポイント阻害薬（PD-1・PD-L1 阻害薬）が標準治療の一部として使用されるようになってきています。また、免疫チェックポイント阻害剤の効果を予測するための様々な因子（バイオマーカー）の研究も広く行われています。

本臨床研究の目的は、手術可能病期の非小細胞肺がんにおいて免疫に関連する血液中の因子（バイオマーカー）を解析することで将来のより良い治療方法の開発に役立てることにあります。

対象

・過去に非小細胞肺がんII-IIIA期と診断され、WJOG4107試験に参加いただいた患者さん
・WJOG4107試験の際に保存された血液検体が使用可能な患者さん

解析資料

本研究では、過去の臨床試験で得られた臨床情報・診療情報と保存された血液検体から測定される項目の関連性を統計学的手法により解析します。本研究で利用する検体は過去の臨床試験で採取・保存された残余血液検体であり、本試験に伴って新たに生じる身体への危険や不利益はありません。

研究に使用されるカルテ情報（これらは既に参加頂いているWJOG4107試験で収集されたものを使用します。）

年齢、性別、performance status（PS）、組織型、原疾患に対する手術歴、喫煙歴、TNM分類、術後病理病期、術後助補化学療法に関する情報　（抗がん剤レジメン、治療開始日、投与サイクル数、最終投与日、疾患進行確認日、治療中止日、治療中止理由、有害事象、臨床検査値）、生存情報、後治療情報

個人情報の取り扱いについて

✦ 患者さん個人が特定されるような情報は一切公表されません。
✦ この研究は、近畿大学医学部倫理審査委員会の承認を得て行っています。
✦ カルテ情報の利用を希望されない方は、以下の問い合せ先までご連絡ください。お申し出いただいても今後の診療等に影響はありません。ただし、すでに論文発表や学会発表にて公表されたデータとなっている場合には撤回はできません。

ご質問

本研究に関しましてお聞きになりたいことがありましたらいつでも担当医もしくは下記問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

研究担当者/
新潟県立がんセンター新潟病院　呼吸器外科

青木　正

研究代表者／
林 秀敏　　近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門

近畿大学医学部内科学腫瘍内科
〒589-8511　　大阪府大阪狭山市大野東 377-2
TEL： 072-366-0221 / Fax： 072-360-5000

研究事務局／
谷﨑　潤子　市立岸和田市民病院腫瘍内科

市立岸和田市民病院 腫瘍内科
〒596-8501　大阪府岸和田市額原町 1001 番地
Tel：072-445-1000　　Fax：072-441-8812